

令和6年度 第3回富塚中学校運営協議会

令和7年2月19日

14:30～15:30

会議室

開会 開催要件（委員の過半数の出席）確認 <司会：廣野、記録：岩邊>

1 会長あいさつ （金原会長）

2 学校長あいさつ （中津川校長）

3 議長の選出

4 前回会議録確認

5 熟議 <議長： >

（1）学校関係者評価について

（2）次年度の学校運営方針について

（3）運営協議会自己評価について

（4）夢育やらまいかCS加算分の報告

6 報告 <司会：廣野、記録：岩邊>

7 連絡

・令和7年度学校運営協議会予定

第1回 令和7年 5月12日（月）14:30

第2回 令和7年 9月12日（金）13:30

第3回 令和7年11月20日（木）14:30

第4回 令和8年 2月18日（水）14:30

閉会

第3回 学校運営協議会出席者

学校運営協議会委員

会長	金原 圭吾
副会長	池谷 定康
委員	島田 篤志
委員	安間 忠雄
委員	高須 博
委員	久保田 智彦
委員	松澤 久仁美(学校支援コーディネーター)
委員	行森 瑞恵(学校支援コーディネーター)
委員	田口 美貴子(学校支援コーディネーター)

オブザーバー

市議会議員	関 イチロー
富塚協働センター	野嶋 京登

学校

校長	中津川 貴一
教頭	廣野 幸恵
教務主任	深田 貴代
C S 担当教職員	藤原 啓子
C S ディレクター	岩邊 三幸

浜松市教育委員会

教育総務課	清水 悠
-------	------

1 自己評価

(1) 令和6年度の取組

本年度は、学校教育目標「自ら考え進んで実践し、共によりよく生きる生徒の育成」のもと、つきたい力を「と・み・つ・か」を頭文字に「とりくむ力（課題対応能力）」「みつめる力（自己理解・自己管理能力）」「つながる力（人間関係形成・社会形成能力）」「かなえる力（キャリアプランニング能力）」の4つとおさえ、継続して教育活動を進めてきている。教育目標具現化のための重点目標として、次の3点を掲げて取り組んできた。

- ① 教育課程をキャリア教育（基礎的・汎用的能力）の視点で整理・精選して諸活動の意義を明確化し、振り返りを充実させる。
- ② コミュニティ・スクールの視点から、学校経営構想の目指す学校像を地域と共有し、人財を活用した教育活動を展開する。
- ③ ICTの積極的かつ効果的な活用、教育コンテンツの共有化により、教育の情報化を推進する。

(2) 学校評価から

コロナ禍の学校運営から通常の学校運営へ活動が戻り、行事等の取組も生徒の充実した活動を目指し行うことができた。授業参観会やTS（総合的な活動）発表会、中学校2大行事である「体育大会」「文化発表会」については、保護者の参観制限もなくなり、生徒の成長の姿を実際に目にしていただげる機会も増えた。体育大会についても、制限なしの応援合戦等ができるようになり、縦割りでの交流がさらに活発に行われた。

様々な取組の変化がある中で、例年との比較は困難な状況にあるが、経年変化を見るために例年と同様に上記の4つの生きる力にコミュニティ・スクールに関する項目を加えたアンケートを、生徒、保護者、職員を対象に実施した。また、昨年度より「いじめ防止等のための基本的な方針」に基づく対応について、今までの質問事項では見えてきにくかった事項を質問内容に加えた。その結果についても分析・考察をして改善を図るため、御意見をいただいた。

①成果と課題（資料参照）

学校評価の結果では、昨年度と同様に多くの項目で8割を超え、良好な指導ができており、多くの生徒が互いによりよく学校生活を送ることができていると言えるが、数値としては、減少している内容もあることを考慮しなければならない。保護者の結果からも、行事を通して仲間とのつながり深める活動ができていると感じている結果が得られた。しかし、困ったことがあったときに相談を気軽にできる人が身近にいないと感じている生徒が一部いることが結果より読み取ることができた。

各項目の達成度を見ると、本校の課題・改善すべきポイントとして以下の項目があげられる。

○生徒版 学校評価からみる改善ポイント

とりくむ力	・目標達成のために計画的を立てて実践する ・家庭学習の主体的な取組・充実を図る
みつめる力	・自分の長所、得意なことの理解を図る
つながる力	・困ったことがあった時、様々な方法を活用して伝えることができる
かなえる力	・自分の将来の姿を考えることができる

○保護者版 学校評価からみる改善ポイント

とりくむ力	・目標達成のために計画を立てて実践する ・家庭学習の主体的な取組・充実を図る
かなえる力	・何事にも目標をもち、それを実現しようと努力する

○教職員版 学校評価からみる改善ポイント

とりくむ力	・家庭学習の主体的な取組・充実を図る
-------	--------------------

三者の学校評価から、「目標を立てた実践」や「家庭学習」、「将来の姿を考える」ことは、本校の昨年度からの課題である。前年度より向上している項目もあるが、この点については継続的に指導の改善を図る必要がある。生徒が中長期的に自分のありたい姿を見つめ、今の自分がすべきことを主体的に考えられる姿勢を育むためにも、キャリア教育のさらなる充実を図っていかねばならない。また、いじめの早期発見、そして「学校は楽しく、安心できる場所」を具現化するために、生徒が困ったことがあった際、気軽に相談できる状況を常に作っておかねばならない。

②学校評価アンケート結果を踏まえた次年度の取組

ア 目指す学校像

- ・個性を認め合い、明るく温かくだれもが安心して生活できる学校
- ・夢と希望、勇気を持ち、主体的に学び、共に成長できる学校

イ 重点

(ア) 授業の充実

- ・教科指導の充実 <教科部会の設定・教科内授業公開>
- ・「主体的に学ぶ生徒」の育成 <個別最適・協働的>
- ・ICTの活用 <主体的・対話的で深い学びの実現のために>
- ・基本的学習習慣の確立

(イ) 心温まる生徒指導

- ・心、体、命を大切に
- ・生徒の思いを大切にした生徒指導
- ・ほたる学級の生徒と

- ・「生活の心得」の見直し
- (ウ) 生徒主体の学習、部活、学校行事
 - ・ 富中だからこそできる活動 「生徒が主体となり、教師が支援」
- (エ) キャリア教育の深化充実、キャリア教育による人づくり
 - ・ 自己の将来を見据えた実践、計画的継続的な努力
- (オ) 不登校、いじめの減少(抑制)
 - ・ 些細なことでも相談できる関係づくり、心の耕し
 - ・ 初期対応、迅速に手厚く
 - ・ 「学校は楽しく、安心できる場所である」

1 国、社会の動向

- 予測困難で急激な変化の時代  Society 4.0（情報化社会）
Society 5.0：経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会
社会を生き抜くための資質・能力の育成
- 新学習指導要領
より良い学校教育を通じてより良い社会を創る 社会に開かれた教育課程
何を学ぶか どのように学ぶか 何ができるようになるか
主体的・対話的で深い学び 3つの柱（評価の3観点）
- 令和の日本型学校教育
「個別最適な学び」と「協働的な学び」 GIGA スクール構想

2 浜松市の教育 第4次浜松市教育総合計画（R7～）

- 基本理念 「描く夢や未来の実現」
- キーワード・コンセプト ①主体性 ②多様性・包摂性 ③信頼・協働
- 目指す子供の姿＋目指す教職員の姿
- 3つの方針「未来を創る」「魅力ある環境」「連携・協働」と5つの政策

これらを受けて、富塚中学校では

I 校訓・学校教育目標・目指す学校像

1 校訓 「感謝 探究 実践」

（人の気持ちに気づく生徒 分かるまで考える生徒 ためらわずに行動する生徒）

2 学校教育目標

「自ら考え進んで実践し、共によりよく生きる生徒の育成」

3 目指す学校像

個性を認め合い、明るく温かくだれもが安心して生活できる学校

夢と希望、勇気を持ち、主体的に学び、共に成長できる学校

<合言葉> 「1UP」 「共によりよく生きる」

生徒訓：「富中プライド」

～当たり前前を当たり前にする（やってはならないことは絶対にやらない）～

II 今年度の重点

1 授業の充実に向けて

- ・ 教科指導の充実

協働

切磋琢磨

※教科部会の設定（含 技能教科）

※教科内授業公開 ※授業評価

- ・ 「主体的に学ぶ生徒の育成」 ※個別最適・協働的
- ・ ICTの活用 主体的・対話的で深い学びの実現のために
- ・ 基本的学習習慣の確立

2 心温まる関わり

- ・ 心、体、命を大切に 慈愛
- ・ 生徒の思いを大切にした生徒指導（生徒の心に寄り添いながら）
×怒鳴る アンガーマネジメント
⇒生徒の将来の幸せを考え、愛情をもってきちんと叱る
- ・ ほたる学級生徒と ※学校にとっての大きなポイント
- ・ 「生活の心得」の見直し

3 生徒主体の学習、部活、学校行事

- ・ 富中だからこそできる活動 「生徒が主体となり、教師が支援」

4 キャリア教育の深化充実、キャリア教育による人づくり

- ・ 自己の将来を見据えた実践、計画的継続的な努力 CS との関わり

5 不登校、いじめの減少（抑制）

- ・ 些細なことでも相談できる関係づくり、心の耕し
- ・ 初期対応 ※迅速に、手厚く
- ・ 「学校は楽しく、安心できる場所である。」 教職員も楽しく！

6 時間外在校等時間の縮減

7 不祥事0・体罰0・不適切な言動0 体に触れる行為

浜松市教職員・富中教職員としてのプライド

Ⅲ 重点の具体

1 学習指導 (授業改善の視点)

(1) 教科指導の充実

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を目指した単元構想の工夫
- ・ 一人1台のタブレットを活用した授業
⇒ 効果的な活用場面の洗い出し
- ・ 学びを振り返り、今後の学習(家庭学習を含む)につなげる指導
- ・ 学習計画表を活用し、生徒が見通しを持ちつつ、学びの跡を残せる授業
- ・ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる授業
- ・ ファシリテーションを取り入れた、話し合いの深まる授業
- ・ 説明責任が果たせる「評価・評定の在り方」の構築(評価規準も含む)

☆ 教科部会を中心とした教科研修の充実

☆ 「思考力・判断力・表現力等」の育成

(2) キャリア教育の充実

- ・ 年間指導計画に基づいたキャリア教育の実践(特別活動、各教科等)
- ・ SDGsの学習や各学年の体験学習が社会参画につながる学習プログラム
- ・ 「本物」「本職」「専門家」に関わる機会の設定
- ・ 富中1UPパスポートの活用(振り返り・評価)と基礎的・汎用的能力の育成

☆ 学んだことを自己の成長につなげる、自己の将来を見据えた取り組み

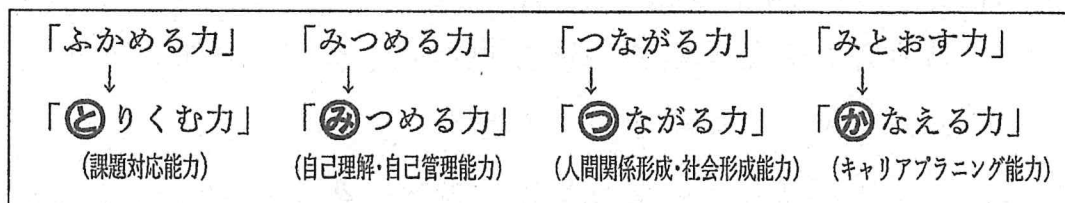
(3) 発達支援教育の充実

- ・ 授業のユニバーサルデザイン「富中UD」
- ・ 個別課題、TT、習熟度、取り出し指導
- ・ 発達支援CD、発達支援学級担任、発達支援指導員、SC等との連携

☆ 「ほたる学級」も「通常の学級」も 生徒個々をよく見ること

2 生徒指導 キャリア教育を視点に

(1) 「社会を生き抜く力」を身に付けるための、4つの基礎的・汎用的能力の育成



(2) 自分づくりの意識啓発・自己肯定感の高揚

- ・ 富中1UPパスポートの活用
- ・ 目標設定 → 自ら考え、自ら実践 → 客観的自己評価力を高める場の設定
「共によりよく生きる」視点・方向性への意識付け

(3) 教職員と生徒の人間関係づくりの構築 (本音で語り合う関係)

- ・ 一人一人を認め大切にする教師の姿勢 「困った。」と言える

- (4) 互いを認め合い、思いやる心がある温かな集団づくり
 - ・ 年度当初に集団の人間関係構築の機会の設定
 - ・ 一人一人の居場所づくり（不適応生徒への支援・合理的配慮）
 - ・ ほたる学級、SRへのより温かな支援（職員、生徒の関わり、校内での存在感）
 - ・ 不登校、いじめの減少（抑制）←アンテナ高く、即対応
- ☆ 「自分と周りの人の心・体・命を大切にする」生徒及び教職員
- ☆ 「ほたる学級生徒」や「学校に来づらくなっている生徒」への手厚い支援
だれもが今より少しでも輝けるように。
- (5) 生徒がつくる学校 <学級自慢→学年自慢→学校自慢>
 - ・ 主体的な二大行事
 - ・ 縦割り活動の充実・発展
 - ・ 学級、学年における生徒の自主的実践的な活動
 - ・ 安心して生活できる学校、学級をつくるための仕組み（ルール）づくり
… 共によりよく生きる学校社会の構築
- (6) 自己を鍛え、個性を磨く部活動
 - ・ 目標に向かい、粘り強く取り組む力の向上
 - ・ たくましい心身・礼儀・協力の心の醸成
 - ・ 浜松市中学校部活動運営方針の遵守
 - ・ 生徒が主体となる活動内容の工夫

3 「ふるさと浜松」の活動（地域への愛と誇り、地域参画の意識啓発・態度育成）

- (1) 地域資源「もの・こと・いのち」の活用
- (2) 地域参画の意識啓発 ボランティア活動への積極的な参加
 - ・ 地域行事、奉仕活動へのボランティア参画
 - ・ 防災訓練への参加

4 コミュニティ・スクール

- (1) 地域が見える学校
 - ・ 地域の「もの・こと・いのち」が見える 学び・行事・校内環境づくり
 - ・ 地域人財を活用した授業での連携（教員の専門性の向上）、CSコーディネーターとの協働の推進
- (2) 学校が見える地域
 - ・ 教育活動の場、地域参画、積極的な広報

IV 求める教職員像

1 教職員としての「生徒」の捉え

- (1) 「生徒」は成長の途上にあることを意識するとともに、一個の人格として認められるべき存在である

- ・ 心を込めて指導、称揚、説諭できる教職員
- ・ 体罰、不適切な言動（暴言）は厳禁
- ・ 率先垂範、切磋琢磨できる教職員
- (2) 「生徒」は、感動と出会う中で成長するものである
 - ・ 熱い思いを語り、共に熱中し、泣き、笑い、感動を共有する教職員
- (3) 「生徒」は「可能性の宝庫」である
 - ・ 生徒の成長を信じ、一人一人に夢や希望をもたせ、個性を伸ばそうとする教職員
 - ・ 生徒のための様々な工夫を楽しめる教職員

2 教職員集団

- (1) 役割の自覚と経営参画の意識
 - ・ 自己の役割とその意義を自覚し、機能集団として活力を生み出す
 - ・ 様々な分掌で任された仕事への責任感と学校全体を動かしている意識
- (2) 良さを認め合い、弱みを見せ合い、補い支え合える仲間としての教職員集団
 - ・ 得意を生かし合い苦手を補い合う→のりしろの拡張とフォロー体制の強化
 - ・ 支え合い共に仕事をする仲間を思いやる雰囲気大切に
 - ・ 他者を尊重し、人を活かす
- (3) 「働き方改革」を通して、より充実した教職生活を確立
 - ・ 時間外在校等時間の縮減（生徒下校後、1時間30分以内に施錠）
 - ・ 多忙感を減らすことができる環境づくり
 - ・ 教職員育成指標をもとにキャリアステージを意識した研修、自己研鑽
 - ・ 年1度の記念日休暇の活用

V 保護者・地域との連携

本校は、地域の支援・協力があってこそ、充実した学校生活が成り立っている。このことは、常に忘れてはならない。

また、生徒が活躍する場を提供してくれていることは、生徒の自信・自己有用感を高めるとともに、生徒自身が、地域住民に信頼される機会にもなっている。さらに、地域住民が学校を好意的に評価してくれることで、一層、学校に対して協力的になる（プラスのスパイラル）。

※ 保護者の協力姿勢を、如何に引き出すか

※ 保護者への対応の在り方。常に最悪のことを想定した対応に心掛ける
（共に子供を見守る、子供の幸せを願うという気持ちを表す）

※ 丁寧・誠実・明るく・親切に接する（不易なもの）

- 1 家庭訪問や三者面談と電話による連絡（機を捉えた良い情報の提供）の充実
- 2 学校公開、便り・HPの充実による積極的な情報発信、さくら連絡網の活用
- 3 PTA活動と連携した保護者への啓発
- 4 コミュニティ・スクールの充実・発展

＜本年度の目標＞

富塚の地域性と現状に生きる生徒の成長に合わせたコミュニティ・スクールを目指し、学校、家庭、地域が共に成長できるようにビジョンをもっと広く共有する。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 学校との情報の共有がしっかりと出来ており、生徒を主体とした十分な熟議ができていた。
- 富塚中のキャリア教育目標・4つの力について内容を理解し、各委員がそれぞれの立場から建設的な意見を述べることができた。
- 富塚中の校訓、学校教育目標、目指す学校像に基づき、学校の実態、実情、抱えている課題の説明により、それぞれ委員間の認識が共有できた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 学校側からの積極的な取組説明、委員からの報告やグループ協議等での意見交換により、学校支援活動について理解が深まり、熟議を円滑に進めることができた。
- 子どもの進路について、キャリア教育を意識し、更に一步踏み込んだ職業選別に繋がるような指導を、地域の豊富な人材を活かしてできないか支援策について熟議した。
- 学校運営の基本方針で熟議したことにより、学校支援活動「富中でよかった」への提案に繋がり、地域活動への投げかけ方法の模索等ができた。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- 地域団体の特色を活かし、連合連絡会等での協力者への発信を行った。
- 学校便り、ホームページで協議結果について公開しているが、支援活動をより活発になるよう地域や保護者へ情報を発信していく。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- コミスクとして学校運営に具体的な補助ができるか議論を重ね、一步先の支援を企画しキャリア教育の更なる充実を図る。
- 来年度も休日部活動の地域移行について、学校と地域で意見交換しながら方向性を共有したい。
- 協議結果を元に、学校支援コーディネーターとして学校のニーズに応じた地域人材を発掘し、支援体制の更なる充実を図りたい。
- 今年度以上に学校や地域、家庭等が役割分担をしながら地域ネットワークを進め、富塚の地域性を生かした学校への支援活動を継続推進する。

上記の意見を踏まえ、今年度の目標を以下のものとする。

- 学校、家庭、地域が一体となって目標・課題を共有し、共に成長できる未来を創る。
- 富塚の地域性を生かした学校運営の実現に向け、持続可能な協働体制を目指す。